

香川短期大学創立50周年に想う

玉 置 忠 徳

はじめに

2017（平成29）年に香川短期大学は創立50周年を迎えました。50年の歴史はあまりにも大きく、重いものがあります。

筆者はそのうち創立6年目から現在までの45年間勤務している立場にある者として、この50年を振り返ってみました。

この50年の歴史に関わられた多くの方のそれぞれの、いろいろな視点の50年の歴史観はあると思いますが、本稿ではあくまで筆者からの、紙面の都合上限られた視点からの50年であることをご理解の上お許しを頂かなければなりません。いくつかの視点を考えて、本稿は、創立50周年記念誌に掲載された、理事長、名誉学長、学長、副学長の座談会形式で50年を語り合った章を柱とし振り返ってみました。紙面の都合上内容の一部を省略しています。本稿での筆者の主旨としては、50年の歴史を単に時系列に述べるのではなく、歴史の節目に、その都度関わられた方々の声、息吹として伝えることでその臨場感がより一層伝わるのではないかと考えこのようなスタイルとしました。特に、50年の歴史が始まる前の創世記ともいえる創設に向けて設置者のご苦労と熱意を取り上げさせて頂きました。また、筆者も附属幼稚園設立に直接関わった経緯があります。

尚、短大設置に向けての様子は、母体である尽誠学園の100年史より引用させて頂きました。

香川短期大学について¹⁾

本学は学校法人尽誠学園の短期大学部門として、1967（昭和42）年に善通寺市生野町に開学した。本学の母体である学校法人尽誠学園は、1884（明治17）年、学祖大久保彦三郎が財田村（現三豊市財田町）に設立した「忠誠塾」ならびにその3年後に京都の地に設立した「尽誠塾」にさかのぼり、四国ではもっとも長い130余年の歴史を有している。

その創設の目的は、ただ理屈をこねる無用な学者ではなく、国家・社会に役立つ学問・人格の優れた「有用の真士」の育成であった。

1907（明治40）年7月、尽誠舎主（のち、学園長・理事長）となった大久保直廣は「至誠天に通ず（誠を尽くして努力すれば必ず報われる）」を実践し、明治、大正、昭和にわたる幾度もの学制改革を乗り越えて学園の拡充発展に、力を注ぎ、64（昭和39）年には、尽誠学園高校女子部を開設した。さらにその卒業生が引き続いて学ぶことが出来る高等教育機関として「愛敬誠」を建学の精神とする本学を善通寺市に開学した。

2017年香川短期大学同窓会オリーブ会の「オリーブ会報」に載せられた「創立50周年を迎えて」の学長挨拶文²⁾より抜粋

香川短期大学は、学祖・大久保彦三郎先生が、明治17（1884）年に阿讃の山懐に開塾した忠誠塾に端を発する、学校法人尽誠学園の設置する短期大学です。昭和42（1967）年に善通寺市で開学、現在までに卒業生12,000余名を排出し、本年創立50周年を迎えました。

開学以来、本学は時代のニーズを的確にとらえた

平成31年1月7日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 子ども学科
TEL 0877(49)5500 FAX 0877(49)5252
Email tamaki@kjc.ac.jp

学科の改編、新設に努めてまいりました。その精神的バックボーンとなったのは、学祖が究めた陽明学の教えでした。知育偏重の教育と一線を画し、「愛敬 誠」の建学の精神の下、教育刷新の道を「実学」と「日本伝統文化の尊重」に求め、社会人としての教養と豊かな専門性を身に付けた人材の養成を推し進めてまいりました。

また、瀬戸大橋開通の翌平成元（1989）年に現在地の宇多津町に移転して以降は、有為な人材の養成とともに、地域社会に開かれたコミュニティ・カレッジとしての大学像を前面に打ち出しています。

中略

少子高齢化が進展する中で、高等教育機関の在り方が問われる時代を迎えました。平成17（2005）年度からは、法律に基づく短期大学の第三者評価がスタートしましたが、本学はいち早くこれを受審し、国の定めた基準を満たしているとして短期大学基準協会から適格認定を受け、7年後にも2度目の適格認定を頂き、本学が短期大学士の学位を保証し、質の高い大学であることが広く証明されました。教職員一丸となった取り組みに加えて、学生たちの弛まぬ努力が本学の発展を力強く支えています。

後略

2018年「オリーブ会報」に載せられた「おかげさまで創立50周年を迎えました。これからの50年に向けて新たな船出を致します。」³⁾より抜粋

創立50周年記念式典は平成29（2017）年11月25日（土）に、ロビーでの弦楽四重奏の穏やかで格調のある調べでご来賓をお迎えし、浜田恵造香川県知事、国会議員、各首長、教育関係者をはじめ旧職員など約100名のご来賓の皆様のご臨席を賜り、温かい雰囲気で行なわれました。

司会進行、受付、誘導、接待など運営は学生が中心となり行い、さわやかな印象の式典となり来賓の方々をはじめ学内外から高い評価を受けました。式典は大久保直明理事長式辞に始まり石川浩学長挨拶、そして来賓祝辞は浜田恵造香川県知事、谷川俊博宇多津町長より頂戴いたしました。

中略

式典の後行われた記念コンサートは、「新たな旅立ち」をテーマに本学学生と教員が出演し、ヘンドルの「水上の音楽」を古楽器と弦楽器の優雅で活力

ある音楽で、短大創立時の溢れる期待感を表現し、続いて美しい重唱でこれまで、そしてこれからの短大を表現し、最後は出演者全員でエルガーの「威風堂々」で、これからの50年に向けて新たな未来の扉を開き突き進んでいく本学の姿をイメージし、心を込めて演奏しました。

式典は、この様に地域に根ざした短期大学にふさわしく華美にならず、卒業後オリーブ会員になる学生の落ち着いた雰囲気ですく々と進行し、また式典での学歌斉唱、記念コンサートでの若々しく生き生きとした歌声を通して、本学学生の理性と情熱をお伝えすることが出来ました。

50周年記念誌第6章の座談会より⁴⁾

【出席者】大久保 直明（第4代理事長）、石川 浩（学長）、北川 博敏（名誉学長）玉置 忠徳（副学長）

●団塊世代の受け皿に

【石川】昭和42年に善通寺市に開学してから50年。本学の歩みを振り返るとともに、100年に向けてのあるべき姿を探っていきたいと思います。開学当初の出来事を詳しく紹介している「尽誠学園創立100周年記念誌」によりますと、第3代理事長（大久保紫朗）が、尽誠学園高校に新設していた女子部普通科の生徒など団塊世代の子どもたちの受け皿として開学を目指したと紹介されています。先代理事長の熱い思いが、50年の屋台骨になっているといっても過言ではないように思います。

【大久保】当時の理事長は祖父（大久保直廣）でしたが、短期大学開学に向けては父（大久保紫朗）が短大創設担当主事を務めていました。私が16歳ですから昭和40年頃、夏休みに県外の高校から帰って来た時、父が毎日理事長室で遅くまで仕事をしていました。「親父、何しよんや」と尋ねたら、「あっちこっちに短大ができれば、わしも一つ短大を作ろうと思とんじゃ」と意気込んでいました。当時は、戦後のベビーブーム世代が受験期を迎え、全国的に大学・短大の新設ラッシュの時代でした。

【玉置】「尽誠学園百年史」に収録されている座談会でも、「流れに乗り遅れないようにした」という言葉がありましたね。

バスに乗り遅れない⁵⁾

創設回顧録 香川短大の沿革
尽誠学園理事長 大久保紫朗
初代学長 小野嘉明
司会者 小倉胤雄の対談から

大久保紫朗理事長

「まあ、当時は、短大というのは、花嫁学校としての色彩があって、高等学校の3年間ではもったいない、どうしても、もう一つ上級の学校へ行きたいという、大学志向が非常に強くなってきておりました。そこで昭和42年に本学を開設したのです。ところがあまりできすぎたので、文部省では、設置に強いブレーキをかけたので、審査を厳しくしました。

香川短大の設置も最後のバスに乗り遅れなかった、やっと間に合ったといういきさつがあることを強調しておかなければなりません。

【大久保】開学の申請時には、「また明日も文部省まで行かないかん」と言って大きな包みを抱えて文部省に日参していました。

【石川】国に提出する設置計画書も馬鹿にならないですからね。

生みの苦しみ—短大創設当時の回顧談⁶⁾

理事長 大久保紫朗先生と初代事務局長 古市正先生の対談より

中略

大久保 今考えれば弱勢の田舎町の私学が短大行きのバスに乗りおくれまいとして、よくもまあ、曲りなりにも短大創設の画期的な仕事を果たすことが出来たものだと思う。御苦労でしたね。

古市 大久保先生は当時の大学情報、文部行政などをよく御存じであった。食物科の認可は取り易い。同じ取るなら栄養士、まあ、できれば管理栄養士の免許を取らせ、さらに進んで看護科を作りたい。または高等看護学校をこしらえたいといった意向を聞かされた。

大久保 大学創設プランは試行錯誤の連続で迷い通しであった。17年たってもそれがはたして正解であったかどうかかわからない。

古市 それで4月26日、1年先輩の今治明德短大に調査に行こうということで、大久保先生運転の車で随分遠いと思ったが今治まで

3時間もかかって行きました。

中略

大久保先生はまだまだ元気旺盛で、そこから車を飛ばして松山東雲と聖カタリナ、次いで宇和島短大も視察したいということで別れました。

大久保 思いだす。我忘れて創設の情熱にもえていたんじゃない。まだ若かったからできたんです。

中略

古市 それから私はね、申請書に必要な会計書類、決算書を作らねばならぬ。・・・

そして、次は創設短大の概要書類を作成する。大久保先生は本省に出かける。その留守で、奥さんは市役所へ行かれて学校の土地台帳と公簿図を確かめられる。

中略

古市 6月2日大久保先生は香川大学に行かれて教員の交渉をされた。・・・いまひとつ図書館の準備は大変であった。大久保先生は、図書館は大学の生命だと申され、短時日に一般的な基本図書を初め、設置学科の学術図書を収集することは並大抵なことではなかった。

大久保 先生はこのことについて、紀伊国屋書店の図書資料を利用され、秋の審査員現地視察までには10,000冊を超える蔵書と目録の整備を終えた。

【大久保】当時は、高瀬町（現三豊市）の上戸学園高校（現四国学院大学香川西高校）も上戸学園女子短期大学の設立を計画していました。「どっちも負けられん」ということで、お互い頑張ろうとエールを交換していたようです。手続きも大詰めを迎え、最後の関門となる教授審査とかの段階になると、提出書類が多すぎて母も父も両手に荷物を持って出かける。そんな光景をいまだに覚えています。

大久保喜美子（大久保紫朗理事長夫人）⁷⁾

短大校舎の建築のかたわら、夫は新設短大の教授陣容をそろえるために東に奔り西に奔り、席の温まる暇とありません。文部省への提出書類を担当の古市先生と徹夜で書き上げ、一番列車に乗って文部省へ直行します。今度はとんぼ返りに書き直しのための重たい書類の山を、また携えて帰校し、訂正が終わると夜行で再び上京といった有様で、私も時には書類の運び屋

役に、いやな感じの文部省へ、夫と同行したことを覚えています。大久保家の家紋の入った三幅風呂敷も行く度文部省へおいて帰るので、家中の風呂敷がすっかりなくなってしまいました。

教授陣などの陣容については、メダカ博士として著名だった香川大学の小野嘉明先生（初代学長）にお世話になったと聞いています。

小野嘉明 初代学長⁸⁾

司会者 小野先生は短大の教育についてどのような理想をお持ちだったんでしょうか。

小野 私は昭和42年に香川大学を定年退職をすることになっておりましたが、昭和24年には、新制大学が発足し、同時に短期大学部のような2年課程の学芸学部というのがあって、教員を養成していきました。それらの教育経験がありますので、私は理想として大学生らしい教育を考えておりました。

大久保 先生は入学式のときも、その点を強調しておられ、私もよく聞いております。今後も、この学校の一つの伝統として、やはり大学らしいという点を強調したいと思っています。

【石川】大変なご苦勞を重ね、ようやく昭和42年に開学したんですね。

【大久保】第一次ベビーブームの子どもの受け入れが迫っていました。そのため、本学も上戸学園さんも家政科だけということで1クラスか2クラスくらいは認可されるだろうと思っていたそうです。昭和42年3月、父は審査結果を確認するため文部省に出向きました。私はその時、善通寺市内の自宅にいたんですけど、父から連絡がなかなか来ない。ようやく夜遅く「尽誠、上戸どちらもOK」と電話が入り、母と一緒に安堵したのを覚えています。

【石川】設立が認可されたのは昭和42年3月13日で4月開学まで1カ月もない段階でした。普通なら前年の10月くらいに設立が認められ、半年ぐらいかけて学生を集め、開学するのが一般的だと思います。それだけに、学生募集には大変苦勞されたでしょうね。

【大久保】何とか定員が集まり「2クラスを確保できた」と父たちが喜んでいたのを覚えています。

●黎明期から拡充期へ

【石川】開学から昭和46ころまではまさに黎明期でした。教学面では、昭和43年に家政科に家政・食物栄養の2専攻課程を設置、さらに翌年には食物栄養専攻に栄養士養成課程を発足させています。また、昭和45年に幼児教育学科（現子ども学科第Ⅰ部）の設置認可を受けています。その翌年、2代目理事長の大久保直廣先生が亡くなり、大久保紫朗先生が第3代理事長に就任されました。その後、昭和47年に家政科に家政コース及び生活デザインコースを設置。そして同年、2代目学長として小倉胤雄先生が着任しました。

小倉胤雄 元学長の談⁹⁾

昭和45年香川短期大学幼児教育学科長に就任

【小倉】翌昭和46年9月に2代目学長の就任の要請がありましたが、私は短期大学の学長としての器ではないことをよく承知していましたから、一応はお断りを申し上げたのであります。

なぜかと申しますと、私は昭和24年には、香川師範学校教授という辞令をもらいましたが、昭和25年には文部省より法務省に出向し、松山少年鑑別所の初代所長を振り出しに、各地の少年鑑別所長や少年院や、監督庁の部長をちょうど20年間務めました。短期大学の学長が務まるだけの能力識見のある人物ではないからであります。

しかし数か月後、再び大久保先生より強い要請があり「適任者が見つかるまで」ということでお引き受けした次第であります。

また、昭和49年には幼児教育学科第Ⅲ部（現子ども学科第Ⅲ部）を設置しています。

第Ⅲ部について¹⁰⁾

第Ⅲ部の制度は、正式には昼間部2交代制と言います。短期大学だけに設置されている制度で、紡績工場と提携して設けた制度が第Ⅲ部の制度。高校を卒業して紡績工場に就職した女子社員が、提携短大の第Ⅲ部を受験し、合格した際には工場勤務をする一方で、空いた時間帯に短大で勉学するという就職進学という形態

ところで、平成元年に本学は善通寺市から宇多津町へ移転しました。

中略

【石川】宇多津へ新築移転する2年前の昭和62年に

は、経営情報科を設置していますね。いろいろとご苦勞があったのではないのでしょうか。

【大久保】学科開設に向けた取り組みは早かったのですが、教員確保には苦勞しました。あちこちの高等専門学校の校長や学科長の先生方に就任を打診したものです。

【石川】私も経営情報科の設立メンバーの一人だったんです。非常勤講師として何年間か授業をした記憶があります。ところで、宇多津移転の1年後には、幼児教育学科第Ⅲ部に保育コース、教育情報コースを設置し、だんだん内部を充実させています。そして平成3年に高松高専の校長を務めていた河西三省先生が第3代学長に、そして平成7年には北川先生が第4代学長に、それぞれ就任しています。

【北川】私は香川大学の岡市友利学長の推薦をいただき、お世話になることになりました。着任したのは平成7年2月でした。何も知らないまま3月に卒業式をして、4月には入学式をしたことを今でも覚えています。

中略

●就職率100%

【石川】本学の歴史を振り返る際、忘れてはいけないのは、20年近くにわたって就職率100%を維持し続けたということでしょう。この原動力となったのは平成6年に就職進学部長に着任した玉井正明先生で、いろいろな改革を通して就職進学部門の強化を図っていただきました。北川先生が学長に着任した平成7年3月に初めて就職率100%を達成しています。

【北川】当時は就職氷河期の真ただ中で、玉井先生の活躍ぶりにはびっくりしました。3年連続で100%を達成した平成9年度には全国紙や地元紙で大きく紹介されたほか、前垣さんというライターが本学の実績を紹介する『就職部は眠らない』『一人の学生も泣かせない』という2冊の本を執筆して刊行し、全国的に脚光を浴びました。当初、玉井先生は本の出版に消極的でしたが、「香川短大のために出版させてほしい」と私が説得して了解してもらいました。これらの本を高等学校の先生方に配ることで本学の評価が一段と高くなりました。

【玉置】しばらくの間、就職率100%というのが本学の売りとなって学生募集に大きく貢献しました。

中略

●時代を先取り

【石川】平成12年5月に第3代理事長の久保紫朗先生が亡くなり、大久保直明先生が第4代理事長に就任されました。

【大久保】私が引き継いだころ、1000人に達しようかというほどの学生が集まっていた。経営情報科もできたし、就職率も100%ということで社会的にも評価を受けて順調な運営状態が続いていました。

【石川】第4代理事長として、翌年には経営情報科の定員を100人から60人に減少し、新たに定員40人の生活介護福祉専攻の設置が認可されていますね。

【大久保】介護は当初、善通寺市の看護専門学校にありました。でも学生がなかなか集まらず、学生確保を目的に短大に移しました。

【石川】平成14年に生活文化専攻にファッション文化コースを設置するとともに、デザインコースの募集停止や栄養管理コースと食品栄養コースの設置、そして経営情報科にビジネス情報コース、産業デザインコースを設置しています。また、附属幼稚園を宇多津町内に開園しています。幼稚園の開設では相当なご苦勞があったのではありませんか。

【玉置】当時、私は幼児教育学科長を務めていました。幼児教育学科にとりましては待望の附属幼稚園開設ということで教員一同喜んだのですが、開園まで地元調整などで大変苦勞しました。当時企画室長だった大久保三加津先生（現学校法人尽誠学園常務理事）と開設に向けて一緒に仕事をさせていただきましたが、12月に設置認可を受け、開園までの4月までほとんど休みなしでした。大久保先生は強いリーダーシップを発揮されました。そういう形でやっと開園にこぎつけました。

【石川】翌年には、専攻科（福祉専攻）が開設されました。

【大久保】専攻科は、介護福祉士資格の取得を希望する子ども学科の学生たちの受け入れを目的として検討しました。

50周年誌より¹⁾

専攻科（介護福祉専攻）は2003（平成15）年4月に開設した。保育資格を有する者が1年間で介護福祉士の国家資格が取得できる課程であったが、17（平成29）年3月、14年の幕を閉じた。

●第三者評価

【石川】平成16年4月に国立大学が法人化され、第三者評価そのものが国立大学だけでなく短期大学も含めて義務付けられました。本学は、平成17年に財団法人短期大学基準協会による第三者評価を県内の短期大学で唯一受審しました。

【大久保】あれは北川先生の英断でした。

【北川】あちこちの短大を見ていて、就職進学部の玉井先生の頑張りも含め本校が適格認定されないようでは他校も通らないという自信がありましたから真っ先に手を上げました。調査に来た人が後日再び来校し、「香川短大はすごい」と評価していただきました。

【石川】平成18年4月には、私が第5代学長に就任しました。着任以来、社会人入学生の授業料減免措置を導入したり、将来構想検討委員会で本学の将来構想を検討開始というようなことで、いろいろなことに取り組みました。同時に、平成19年4月からは、誰が関わっても同じような運営ができるよう規則、規程をしっかり立てなければいけないとの思いで各種規程を40本くらい策定しました。

中略

【石川】ところで、平成19年には幼児教育学科を子ども学科に改称したのですが、その際に「これは何とか適切な名前に変えた方がよいのでは」と玉置副学長にお願いしました。みなさんに一生懸命検討していただき、6月に申請して翌年が変わっていますね。

【玉置】石川学長に呼ばれ、「これからの時代に合った学科名に名称を変更しなさい」と言われました。それで学科内で検討を重ね、子ども学科になりました。同時に収容定員も第Ⅰ部50人を生活文化学科から10人を頂き60人に増員しました。

中略

【石川】平成20年には、平成17年に実施して2回目の第三者評価までの中間年ということで、同種形で

競合せず類似点の多い鳥取短大を選んで相互評価を行い、翌年3月に報告書をまとめています。ところで、平成25年には本学が中心となって高松で「全国保育士養成セミナー・全国研究大会」を開催しました。

【玉置】全国に7地区のブロックがあり、その年は中・四国ブロックが当番年でした。

【石川】中・四国が順番だったのですが、「玉置先生やってください」と無理やりお願いしました。受付や案内など子ども学科の学生たちも大変だったと思いますけれど、子ども学科の知名度はすごく上がったのではないのでしょうか。

【玉置】学科の先生方にも役割分担をお願いして無事開催にこぎつけました。1,200人が参加し、内容的にも充実した大会になりました。

大会関係者から「正直いって短大でよく成し遂げられたなあと感服いたします」との感想を頂きました。

中略

●地域貢献の姿

【石川】大学教育は、教育・研究だけではなく、地域貢献の必要性が求められていました。学校教育法にも大学の目的として、研究成果を社会に還元して社会の発展に寄与するよう求めています。本学としても、社会に対して貢献しているということが見える組織として平成20年に附属施設として地域交流センターを設置しました。そして、遡ること2年前の平成18年、うたづ臨海公園が『恋人の聖地』に指定されモニュメントが建立されました。その開所式で、当時の谷川実町長が「香川短大と組んでここを盛り上げてほしい」と言われて平成相聞歌コンテストを始めました。

中略

今年で11回目ですが、50個近い石碑が並んだら、やっぱりちょっと違うなということもあって、国土交通省が目をつけて宇多津の古街と歌碑が並ぶ新宇多津郡市をつないで香川県で第三番目の日本風景街道「うたづ今昔ロマン街道」に認定してくれました。

中略

産学連携も地域貢献に欠かせないキーワードです。地域の産業界と交わって本学の有する知財で何かをするという取り組みも食物栄養とか生活文化分

野で数多くあり、地域の評価は高いように思います。

中略

【大久保】 もちろん、これからも地域に根差したコミュニティ・カレッジを目指していかないといけないんですが、少子高齢化が進んで学生募集も非常に厳しい状況です。かつては県内に短大が6校ありましたが、今あるのは本学と高松短大だけです。この厳しい状況の中で生き残っていかなければいけない。そのためにはどうすればいいのか。施設も充実させないといけないだろうし、やはりいい人材を地域に供給していかないといけない。そのため、日本人の学生が減ったのならコミュニティ・カレッジからはみ出ないように外国人留学生を少し入れようとの構想もあります。

中略

●次代見据えて

【石川】 50周年を踏まえ、今後本学が何を目標としてどう進むのかについてご意見をうかがいたいと思います。

【北川】 私が学長に着任した平成7年、香川大学学長などを務めて当時は瀬戸内短期大学の学長だった幡克美先生に就任のあいさつに行きました。その当時、本学は入学希望の学生が殺到していましたが、幡先生のところは県内から学生を確保するのが厳しく、上戸学園女子短期大学という校名を瀬戸内短期大学に変更し、県外ですごい広報費をかけて学生を募集しているという話を聞きびっくりしました。

【石川】 大学が投資するわけですね。

【北川】 その後、平成16年に明善短期大学が閉学し、平成18年には四国学院短大、徳島文理短大志度校がいずれも閉校しました。そして平成22年に瀬戸内短大もなくなって、栄養関係のコースがあるのは本学だけとなり、これは追い風となりました。優秀な教員と学生、それから施設があるというのは本学の大きな強みです。今後は、これを活用してどんどん広報活動をすべきだろうと思います。また、国の施策が保育行政に向いていますから、幼児教育分野の質的拡充も欠かせないのではないのでしょうか。

【玉置】 少子高齢化は国の大きな問題であり、本学はそれに対応できる学科を持っています。

中略

【石川】 ここ20～30年で東南海地震が高い確率で必ず起こるだろうと言われ、危機管理と防災がクローズアップされています。香川大学では危機管理センターがあり、防災士養成課程を開設しています。

中略

【大久保】 宇多津は海に面していますから、大地震が起きたら必ず何らかの被害が出ます。その時に活躍できる人材を世に送り出すのもコミュニティ・カレッジの一つの役割ですね。

【大久保】 国は今、女性の社会進出を施策として強く打ち出しています。女子学生の割合の多い本学ですから、それに乗っかっていけるようなことがあればいいですね。

【石川】 国は防災士知識の普及は、可及的速やかにやるべき必須の施策としているようです。それを大学が引き受けるという形にすれば、うまくいくのではないのでしょうか。ちょうど地方創生計画が推進されていますが、そこでは先ほどのCCRCとかが入っています。それがうまく機能すれば、おもしろいかなと思います。それと同時に、本学の教職員すべてが一丸となって20年、30年後の本学のあるべき姿について認識を高めてくれれば最高です。

【玉置】 そうですね。「50年経ちました、ご苦労さん」ということで終わるのではなく、これを機会に次の50年を一緒に考えるという姿勢こそが大切だと思います。

【大久保】 これからの50年という共通認識は大切です。これを機会に、ぜひ皆さんで本学の理想形を追究し続けてほしいと願っています。

【石川】 機会があるごとに「お前らで考えろ」とおっしゃってください。理事長がそれを言ってくれるとみんな頑張ろうと思います。組織に何十人いても、バラバラな方向を向いていたら合力はゼロなんですよ。

【大久保】 ベクトルが一緒になることが肝心ですね。

【石川】 大久保理事長には、ゼロにしないような手だてをぜひやっていただきたいと願っています。本日は、長時間にわたり貴重なお話をありがとうございました。

おわりに 「温故知新」

本学の建学の精神「愛 敬 誠」は陽明学の教えにあり、陽明学の根本は孔子の儒学にあります。その孔子が述べたものを弟子たちがまとめて記した「論語」の中に、「温故知新」という言葉があります。孔子は「新しい創造はまず古きを学ぶことに理があります」と述べられています。それは「歴史・思想等昔のことをよく調べ、研究して、そこから新しい知識や見解を得ること」であります。

本稿での筆者の主たる思いは、本学職員又は関係者は、創設時の設置者が多くの課題を大変なご苦労と熱意で解決され設立に至った、その生みの苦しみ、ご苦労を本学職員のほとんどの者が知らない状況にあるとの理解の上で少しでも知っていただく機会となればとの考えにあります。

現在、我々が教育・研究・社会活動等が行えるのは、この始まりがあつてのことです。もし今ある環境が当たり前の様に思っているのであれば、この創立50周年を機会に、新しい視点を見出し、今後の自分自身の発展及び本学の発展に結びつくことになればよいのではないかと独善的であることは十分認識した上での思いからであります。

本稿では、今後の高等教育の大きな変革の波に立ち向かうために、建学の精神「愛 敬 誠」を「温故知新」の精神で改めて確認し、これからの50年への姿勢に繋がればとの想いでこれまでの50年を振り返ってみました。

引用文献

- 1)『香川短期大学創立50周年記念誌』香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会〔編〕, 2017年, 学校法人尽誠学園香川短期大学発行, 1頁
- 2)『香川短期大学創立50周年記念誌』香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会〔編〕, 2017年, 学校法人尽誠学園香川短期大学発行, 学長挨拶文
- 3)『香川短期大学同窓会オリーブ会』〔編〕, 2018年, オリーブ会報, 第50号, 1頁
- 4)『香川短期大学創立50周年記念誌』香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会〔編〕, 2017年, 学校法人尽誠学園香川短期大学発行, 105-112頁
- 5)『盡誠学園百年史』尽誠学園百年史編纂委員会〔編〕, 1987年, 学校法人尽誠学園発行, 781頁
- 6)『盡誠学園百年史』尽誠学園百年史編纂委員会〔編〕, 1987年, 学校法人尽誠学園発行, 768-771頁
- 7)『盡誠学園百年史』尽誠学園百年史編纂委員会〔編〕, 1987年, 学校法人尽誠学園発行, 1045頁
- 8)『盡誠学園百年史』尽誠学園百年史編纂委員会〔編〕, 1987年, 学校法人尽誠学園発行, 781頁
- 9)『盡誠学園百年史』尽誠学園百年史編纂委員会〔編〕, 1987年, 学校法人尽誠学園発行, 763頁
- 10)『香川短期大学創立50周年記念誌』香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会〔編〕, 2017年, 学校法人尽誠学園香川短期大学発行, 128頁
- 11)『香川短期大学創立50周年記念誌』香川短期大学創立50周年記念誌編集委員会〔編〕, 2017年, 学校法人尽誠学園香川短期大学発行, 39頁